



ORACLE®

第28期 株主通信

2012年6月1日から2013年5月31日まで

株主通信 vol.24

Hardware and Software, Engineered to Work Together

証券コード*4716

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに当社の2013年5月期（2012年6月1日から2013年5月31日まで）のご報告を
させていただきます。

▶▶ 当期の経営概況

売上高

当期における日本国内の経済環境は、前半は一部に弱い動きが見られたものの、輸出環境の改善や復興需要等を背景とした企業活動の持ち直しに伴うIT投資も徐々に増加してきております。

売上高は、153,148百万円となり、前期比7.2%増の過去最高となりました。

新規ライセンスおよびクラウド・ソフトウェア・サブスクリプション

① 新規ライセンス 企業等のIT基盤に利用される、データベース管理ソフトウェア、各種ミドルウェア、ERP等の業務アプリケーションソフトウェアの新規ライセンスを販売しております。データベース、ミドルウェアを中心に、クラウドやビッグデータの利活用環境、事業拡大や経営環境の変化に迅速に対応できるIT環境の構築等、お客様の事業活動を支えるIT基盤に必要不可欠な製品として、多くのお客様で当社製品の採用が進みました。また、ソフトウェアとハードウェアをあらかじめ統合して提供する「Oracle Exadata」等のエンジニアド・システム製品群が好調に推移し、これら製品とともに利用されるデータベースやオプションの販売も増加いたしました。さらに、お客様の業種・業界に特化したインダストリー・アプリケーションや人材管理ソリューションのHCM製品群等が堅調でした。

② クラウド・ソフトウェア・サブスクリプション 特定のソフトウェアやソフトウェア実行基盤をクラウド・コンピューティング環境でサービス利用型として提供しております。製品・サービスの購入や利用過程において顧客が経験する価値である「カスタマー・エクスペリエンス」の向上を実現し、顧客満足度を高めるカスタマー・エクスペリエンス製品群や医薬品業界向けの製品群が好調に推移いたしました。

アップデート&プロダクト・サポート

ライセンスを利用されているお客様に更新版等のアップデートや技術サポートを提供しております。お客様の導入製品や利用環境に応じたプロアクティブ（事前対処的）かつプリベンティブ（予防的）なサポートを提供する「My Oracle Support」等、サポートの価値訴求の推進を継続して実施するとともに、パートナー様との協業を推進し、新規に販売された製品に対するサポートの装着率や既存サポート契約の更新率の維持向上を目指した施策を進めてまいりました。

ハードウェア・システムズ

① ハードウェア・システムズ・プロダクト サーバー、ストレージ、エンジニアド・システムのハードウェアの販売およびそれらのオペレーティングシステム（OS）や関連ソフトウェアを提供しております。Oracle Exadata等のエンジニアド・システムの販売が好調に推移いたしました。

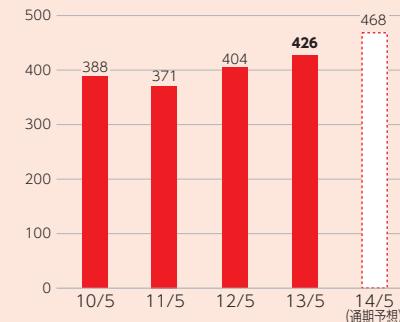
② ハードウェア・システムズ・サポート ハードウェア製品の技術サポート、修理、メンテナンスの提供およびOS等関連ソフトウェアの更新版等の提供を行っております。ハードウェア製品に対するサポート装着率の向上や既存のお客様からの更新契約の確保により、堅調に推移いたしました。

▶▶ 決算ハイライト

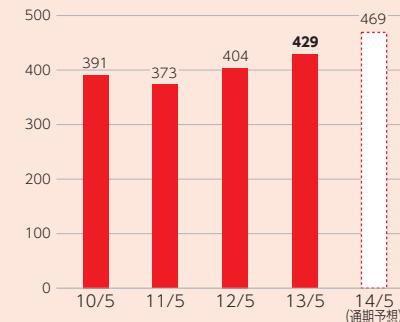
売上高（億円）



営業利益（億円）



経常利益（億円）



当期純利益 (億円)



1株当たり当期純利益 (円)



1株当たり配当額 (円)



サービス

- ① マネージド・クラウドサービス** 予防保守サービスやマネージドクラウド型サービス等の高付加価値サービスを提供しております。予防保守サービス「アドバンスト・カスタマー・サポート・サービス」がOracle Exadata向けサービスを中心に好調に推移いたしました。
- ② エデュケーションサービス** 技術者や利用者向けの研修事業や技術資格の認定事業を提供しております。
- ③ コンサルティングサービス** 当社製品の導入支援を行っております。新規ライセンスを購入されたお客様への導入支援コンサルティングサービスが堅調に推移いたしました。

営業利益

売上原価は、ハードウェア・システムズの増収に伴い仕入原価、ソフトウェア関連の増収に伴いロイヤルティ、コンサルティングサービスの増収に伴い業務委託費が、それぞれ増加いたしました。販売費及び一般管理費は、クラウド・ソフトウェア・サブスクリプション売上の増加などにより業務委託費が増加したものの、管理部門の人員減等により、人件費が減少いたしました。以上の結果、営業利益は42,673百万円（前期比5.5%増）となりました。

経常利益

為替差益158百万円、受取利息73百万円を営業外収益に計上したことなどにより、経常利益は42,902百万円（前期比6.0%増）となりました。

当期純利益

特別利益として新株予約権戻入益(90百万円)等、特別損失として事業構造改善費用(207百万円)を計上したことなどにより、当期純利益は26,494百万円(前期比11.7%増)となりました。

▶▶ 次期の見通し

次期の見通しにつきましては、売上高165,500百万円（前期比8.1%増）、営業利益46,800百万円（前期比9.7%増）、経常利益46,900百万円（前期比9.3%増）、当期純利益29,000百万円（前期比9.5%増）、1株当たり当期純利益228円を見込んでおります。

▶▶ 配当金について

期末の配当金につきましては、1株当たり84円とさせていただきます。

また、次期の配当金につきましては、現在の業績予想の達成を前提に、配当性向として40%を目指すという当社の配当方針に基づき、期末配当金として1株当たり92円（前期比8円増）とさせていただきます。

*

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

TOPICS

2013年4月

～Oracle CloudWorldを開催、 オラクル・コーポレーションのクラウド事業戦略を発表～

オラクル・コーポレーションCEO、ラリー・エリソン、そしてゲストにソフトバンク株式会社 代表取締役社長 孫正義氏を迎えた基調講演で幕を開けたOracle CloudWorldは、営業、カスタマーサービス、財務／経営計画／調達、人事、アプリケーション開発という5つの業務別に5トラック、30以上のセッションを展開。クラウドのテクノロジーを活用することでビジネスを変革し、成果をもたらすソリューションを紹介しました。オラクルのクラウドに対するお客様やパートナー様の期待の高まりを強く感じるイベントでした。

～SPARC (スパーク) マイクロプロセッサを搭載した サーバーの新製品 [SPARC T5]・[SPARC M5]の提供を開始～

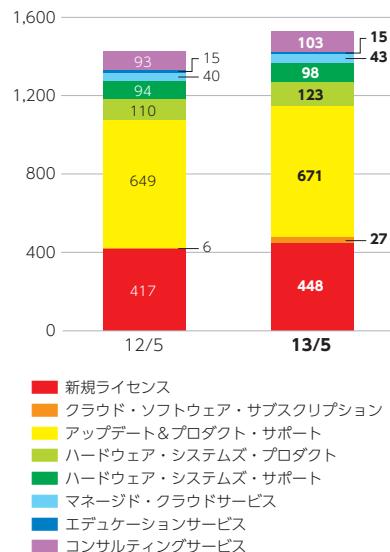
最高レベルのパフォーマンスが求められるビジネスクリティカルなアプリケーションに最適なプラットフォームとして、「世界最速」を実現するUNIXサーバーを発表いたしました。

3歳になりました



日本オラクル
4代目社員犬
「キャンディ」(Candy)

セグメント別 売上高の推移 (億円)



▶▶ 当期の部門別売上高

(金額は単位未満を切り捨て、構成比ならびに対前期比は単位未満を四捨五入で表示)

区分	金額	構成比	対前期比
新規ライセンス	44,852百万円	29.3%	7.3%
クラウド・ソフトウェア・サブスクリプション	2,707百万円	1.8%	310.2%
新規ライセンスおよびクラウド・ソフトウェア・サブスクリプション 小計	47,560百万円	31.1%	12.0%
アップデート&プロダクト・サポート	67,109百万円	43.8%	3.3%
ソフトウェア関連 計	114,669百万円	74.9%	6.7%
ハードウェア・システムズ・プロダクト	12,370百万円	8.1%	11.9%
ハードウェア・システムズ・サポート	9,831百万円	6.4%	4.3%
ハードウェア・システムズ 計	22,202百万円	14.5%	8.4%
マネージド・クラウドサービス	4,373百万円	2.9%	7.4%
エデュケーションサービス	1,524百万円	1.0%	△2.5%
コンサルティングサービス	10,378百万円	6.8%	10.9%
サービス 計	16,276百万円	10.6%	8.5%
合計	153,148百万円	100.0%	7.2%

要約財務諸表

▶▶ 貸借対照表

(百万円/百万円未満切り捨て)

科 目	前期末 (12/5)	当期末 (13/5)
資産の部		
流動資産	68,375	94,267
固定資産	43,117	42,543
有形固定資産	41,340	40,587
無形固定資産	20	19
投資その他の資産	1,757	1,935
資産合計	111,493	136,810
負債の部		
流動負債	50,963	59,246
固定負債	91	91
負債合計	51,054	59,337
純資産の部		
株主資本	59,526	76,491
資本金	22,301	22,304
資本剰余金	5,652	5,654
利益剰余金	31,595	48,558
自己株式	△23	△25
評価・換算差額等	△22	△10
新株予約権	934	992
純資産合計	60,438	77,473
負債・純資産合計	111,493	136,810

▶▶ 損益計算書

(百万円/百万円未満切り捨て)

科 目	前期 (11/6~12/5)	当期 (12/6~13/5)
売上高	142,919	153,148
売上原価	71,523	78,054
売上総利益	71,395	75,093
販売費及び一般管理費	30,963	32,420
営業利益	40,432	42,673
営業外収益	102	240
営業外費用	54	11
経常利益	40,480	42,902
特別利益	51	90
特別損失	19	207
税引前当期純利益	40,512	42,785
法人税等	16,803	16,290
当期純利益	23,709	26,494

▶▶ キャッシュ・フロー計算書

(百万円/百万円未満切り捨て)

科 目	前期 (11/6~12/5)	当期 (12/6~13/5)
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,364	35,555
投資活動によるキャッシュ・フロー	24,822	△26,032
財務活動によるキャッシュ・フロー	△49,527	△9,553
現金及び現金同等物の増加額	8,659	△30
現金及び現金同等物の期首残高	14,834	23,493
現金及び現金同等物の期末残高	23,493	23,463

日本のクラウドコンピューティング市場において、クラウド基盤の核を担う製品の提供により、リーダーシップを発揮していきます。

オラクルはクラウド&ビッグデータをリードしていきます。

オラクルのデータベース、ミドルウェア、アプリケーション、仮想化技術、大規模システム管理技術等を担う製品はクラウド基盤の核となる技術として、市場をリードしています。また、オラクル自身がクラウド事業者としてクラウド事業を提供しているほか、パブリック・クラウドやプライベート・クラウドを運用するお客様に、クラウドの基盤を担う製品やサービスを提供しています。お客様は、オラクルのクラウド事業が提供するサービスを利用する、当社の製品やサービスを利用して独自のプライベート・クラウドを構築するといった選択肢を確保できます。

こうした戦略に基づき、2013年に投入された製品の一部をご紹介します。

クラウド環境向けに設計された初のデータベース [Oracle Database 12c]

オラクルでは、Oracle Databaseの歴代リリースを通じ、お客様がデータベース・サービスをクラウド上で標準化、統合、自動化する際の労力を減らす努力を続けてまいりました。

2013年7月に提供を開始した「Oracle Database 12c」には500以上の新機能を追加し、データベース・クラウドの簡単な展開と管理を可能にする新しいマルチテナント・アーキテクチャが導入されています。複数のデータベースを簡単に統合するOracle Multitenantや、より高い密度でデータを圧縮して階層化する、ヒートマップを使用した自動データ最適化機能などのイノベーションが、リソースの効率性と柔軟性を最大化します。このような独自の機能改善と、可用性やセキュリティ、ビッグデータのサポートに対する主要な拡張内容が相まって、Oracle Database 12cは、プライベート・クラウドやパブリック・クラウドの導入に理想的なプラットフォームに仕上がっています。



エンタープライズ・ コンピューティングを再定義する 「SPARC T5/M5」サーバー

2013年4月に提供を開始した「SPARC T5/M5」サーバーは、クラウド環境に求められるIT基盤、ビッグデータを最大限に活用・分析し、市場動向をリアルタイムに経営に反映できる処理能力を実現します。パフォーマンスを最大10倍向上し、中規模から大規模用途のエンタープライズ・コンピューティングに優れた価値を提供します。



オラクルのデータベースやミドルウェア、業務アプリケーションといったソフトウェアを高速に実行するプラットフォームで、仮想化技術にも標準対応しているため、データセンター内のシステム統合やプライベート・クラウドの導入にも最適です。

クラウド・アプリケーション基盤を 支えるミドルウェア製品群

ミドルウェア製品では「Oracle Cloud Application Foundation 12c」として、クラウド・アプリケーション基盤を支えるミドルウェア製品群の提供を開始。「Oracle Database 12c」に対応したアプリケーション・サーバー「Oracle WebLogic Server 12.1.2」、モバイルの需要増やクラウド要件に合わせた機能強化をはかったインメモリ分散データグリッド「Oracle Coherence 12.1.2」、クラウド環境対応の分散トランザクション処理製品「Oracle Tuxedo 12c」などが含まれ、ミッション・クリティカルな業務アプリケーション基盤から、スマートフォン

やタブレット等のスマート・デバイスへの展開を支えるクラウド基盤の構築を可能とします。

コーポレート・シチズンシップの取り組み

▶ ITの戦略的活用を通じた 社会貢献活動へ ～コーポレート・シチズンシップ～

日本オラクルは、「ITの新しい価値を創造し、お客様の成功と社会の発展に貢献する」ことを基本理念として掲げ、ITを用いてお客様の経営課題を解決するお手伝いをする中で、社会の発展に貢献してきました。

2013年6月にはこの活動をさらに推進するため、コーポレート・シチズンシップの専任組織を立ち上げました。

私たちが持つ技術と資源を積極的に活用して、機会の創出、環境保護、教育の振興、コミュニティの活性化に貢献できるよう、引き続き努力をしていきます。

▶ IT教育からエンジニアの育成、 これからのITに向けて

オラクルは、次世代を担う若者や子どもにとって、コンピュータ・サイエンスは将来に向けて多くの扉を開いてくれる学問であると考えています。

1994年に非営利団体「Oracle Education Foundation」を立ち上げ、世界中の学校に総合的なオンライン学習環境を提供してきました。

オラクルのソフトウェアやJAVA開発環境など、実社会で役に立つ最新のコンピュータ・サイエンス教育リソースを提供することで、次世代のエンジニアとなる若者や子どものITスキル習得を支援しています。

